

いよいよ広島空港が民営化へ
離陸することとなった。

現在、広島空港は滑走路などの部分は国が運営し、空港ビルなど周辺部分は第三セクターが経営しているが、これを一体的に民間事業者に委託し、民間のノウハウを生かした空港の活性化を図ろうとするものである。

振り返ると今から約40年前、

私は広島県の空港を所管する企画部長として、国内外の航空需

想



すげかわ けんじ
菅川 健二

広島空港民営化に期待

要の増大に対応するため、当時広島市の観音（西区）にあった広島空港をそのまま拡充し存続させるか、または新たな場所（県内をくまなく調査して現空港が所在する本郷地区などを適地に選定）に移転して整備するかの選択を迫られたのである。

その際、関係者、有識者による「広島空港基本問題協議会」を設置し、運航などの諸条件を比較して、協議を重ねた結果、

新空港の建設を指向すべきだとの結論を得たのである。ただ、新空港は、広島地区から相当遠方になることから、そのアクセスの整備が強く要請され、サブアクセスとして軌道系の山陽線白市駅からの延伸を検討すると、専門家の提言を得た。

空港の建設段階に入って用地買収は県が行うこととなった。そこで地域の特性を生かした森林の中に空港が所在する空港公

園的な構想の下に、必要面積の倍以上の用地を手当てし、周辺地域を県民の憩いの場として中央森林公園、三景園、リゾート施設などを整備し、環境に優しい空港としたのである。

残念なことに、軌道系アクセスは、その後、リニア鉄道案など迷走して今日に至っており、アクセスの改善が急がれる。現在、広島空港の民営化は運営事業者として2グループが応

募し、目下審査中で、今年6月に決定し、来年4月から運営開始の予定と聞いている。

広島空港の民営化により、空港と周辺地域の経営が一元化され、地域全体のにぎわいの創出とともに、国内外との路線網の拡大と空港からのアクセスの改善により、名実ともに中四国のグローバルゲートウェイとしての役割を果たすよう期待したい。

(元参議院議員)